

日退教通

No. 404

2022.10

日本退職教職員協議会

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋二一六―二 日本教育会館6F
発行責任者 竹田邦明
TEL 03(5275)2197 FAX 03(5275)2081
Email nitaikyoyo@gmail.com ホームページURL <http://www.nitaikyoyo.com>

第2回役員会、第1回ブロック代表者・女性代表者会議開催 9月13日

今回は3年ぶりに、ブロック代表者が全員参加しての開催でした。

北海道ブロック(北島義久さん)帯広で半旗要請の件もあったので、

各地域で「弔意の強制はしないよう」に、文書で要望書を出した。そのようないふこともあるので日退教は「国葬に反対する取り組み」は「案内」ではなく「要請」にして欲しい。

東北ブロック(川村豊太さん)三年ぶりに東北ブロック会議を開催した。しかし、この間二つの退教が消えるなど各県の退教は衰退している。昨年は「宮城・岩手の震災を学ぶ旅」をやった。今年は10月末に岩手でやるので是非参加して欲しい。関東ブロック(石川博さん)関東ブロックは一年ごとに担当者が変わる。9つの単会で関ブロの組

織活動集会をやっている。昨年はコロナ禍でできなかったが、群馬退教の指導で、この2月にオンラインで開催した。北陸ブロック(安津謙二さん 代理)珠洲地震被害者に対するカンパに感謝している。この三年間集まる機会が全くなく、書面での議決でやっていた。9月20日に国葬反対集会があるので退教も参加する予定である。東海ブロック(小林勝彦さん)愛知退教連で3月27日、久しぶりに集会を開いた。7月の参議院選ではかなりの危機感を持って運動してきた。その為、愛知選挙区で斎藤よしとかさん、比例区では古賀さんが3位で当選できて大変良かった。近畿ブロック(富森和男さん)大阪のコロナがひどくて丸2年ブロック会議ができなかった。今年の5月にやっと開催できた。2025年の大阪万博に向けてカジノを作るといふ維新肝いり事業があるが、それに反対するための活動も考えている。

初登院の古賀ちかげ参議院議員



日本退職教職員協議会の皆さん、こんにちは。古賀ちかげです。

7月に行われた参議院選挙では多くのご支援を頂き、「現場の声を国会に届ける」というスタートラインに立つことができました。本当にありがとうございました。皆さんの思いに応えることができるよう精一杯頑張ります。

30年の教員生活で、悩んでいる子どもたちをたくさん見てきました。また、教職員の業務が多忙化していて、教職員は疲弊しています。このような状況では、子どもたちの心が見えなくなり充実した教育活動はできません。子どもたちを中心に据えた学校、教育をめざします。

年金が4月からまた下がり、高齢者の生活が苦しくなっています。国は防衛費をGDPの2%、10兆円まで上げようとしています。全ての年金受給者の年金を月に1万円上げたら約5兆円。また、市民全ての医療費を無償化しても5兆円強。私たちの税金5兆円は、市民の安定した暮らしのために使われなければなりません。

今、平和の危機です。この世界情勢の中、「軍事増強」をおおるような報道がなされています。「核共有」「軍事増強」「憲法改悪」必要ありません。先の参議院選挙では、改憲勢力が3分の2を超えましたが、「憲法改悪」を阻止し必ず平和憲法を守ります。

そして、日政連議員の皆さんと連携し、「子ども」「くらし」「平和」を守るために力を尽くします。今後ともご支援のほどよろしくお願いたします。

中国ブロック（山根基嗣さん）

昨年11月に岡山でブロック会議を開催した。今年度は11月に広島で開催予定。五県が年ごとに持ち回りで担当している。

参院選では古賀さんへの応援で大変盛り上がった。

四国ブロック（門田権四郎さん）

コロナ禍でブロック会議は長らく中止していたが、5月に平岡事務局長を迎えて開催できた。また、古賀さんを迎えて高知では決起集会ができて良かった。

九州ブロック（西村祐一さん）

毎年持ち回りで学習会とブロック会議をしていた。コロナのために3年間開催できなかったが、2023年の3月9、10日とやる予定で案内を出した。沖縄知事選挙では、九州ブロックで激励の文とカンパを送っ

たが、勝利することが出来て本当に良かった。

協議事項の質疑、意見等

●「原発について」に関して

「岸田政権は原発の再稼働等に言及している。まだ福島原発処理も出来ていない中で、あり得ない事であるが、連合は原発に関してどのような姿勢なのか」等、連合と運動することの危惧の意見あり。

●「安倍元首相の国葬」に関して

モリカケ問題や桜をみる会、統一教会の問題が山積する中で、統一教会に断固反対の意見多数。

●その他

教員免許更新制が廃止されて嬉しい。その効果等はどうなのか。「働きかた改革」と称しているが、実態は数字の帳尻あわせで現場はますます働きにくくなっている。「情勢」の中にその問題も入れてほしい。会議や大会の結果報告を各会員にしつかり届けて欲しい等、多数の意見が出されました。

竹田会長からは「一旦、日教組の立場から出していくので、それを見守っていく」「結果報告に関しては『通信』で知らせているが、それ以外はネットに掲載している。更に何か出来ることがあるか検討していく」旨の答えがありました。

文責：中山律子

強い雨が度々降るなか、1万3千人が参加をしました。日退教も首都圏から20人ほどが参加しました。



私は目取真さんから話が聞けるとはありがたや、ツアーに参加して良かったとニンマリ！彼は沖縄戦について、「先に戦闘が終わった北部と、最後になった南部では戦後の様相が違った。北部では昼はアメリカ軍の世界、夜は日本軍の世界だった」と語りました。彼の短編『斥候』（『世界』2022年5月号）にはそんな背景があったのかと、戦後の沖縄社会の複雑さについて考えさせられました。

6月末参議院選の最中に辺野古へ座り込みに行きました。2日後に岸田首相が自民党候補応援のために来沖とかで、警官がそちらに多数動員され、辺野古の土砂搬入工事は中断されていました。新基地建設反対派の人々は市内街頭での選挙活動に力を入れていくらしく、キャンペーンウェブゲート前のテント小屋は人影も少なく閑散としていました。しかし、座り込みの世話人の方々は私たち一行のためにわざわざプログラムを準備して待っていてくれました。最初の「三線」の演奏に続いて、耳を覆ったカーキ色の帽子を目深にかぶった黒づくめの服の人が私たちの前に立ちました。この精悍な人物は誰だろう、作家の目取真俊さんでした！高校の先生をしていた縁で私たちの座り込みに駆けつけてくれたのです。

辺野古の座り込みの後、高江に行きました。私が訪れた6年前とは様相が一変、基地拡充の実態をまざまざと知らされました。3日目は予定を変更して伊江島にわたり、阿波根昌鴻反戦平和資料館を見学、原爆の模擬爆弾がウクライナと重なって胸に突き刺さりました。今は亡き阿波根おじいさんの片腕ともいべき同志謝花悦子さんは話の最後に、死を間近にして「心は怒りでいっぱい、今死んだら戦争屋が喜ぶ」と心情を吐露されました。素晴らしい闘魂！そして最後に一言！空港への道で「美ら島の護り第15旅団」と描かれた大看板に遭遇、背筋が寒くなりました。米中の緊張の高まりは、もろ沖縄を直撃し、戦争屋が声高に叫ぶなか、これに抗してゆるがない意思で頑張っている人々に接していただく励まされました。旅行を企画された方々ありがとうございました！

都高教退職者会…中川寿子

「女性参加者の集い」

2022・9・14 日本教育会館6F

「日退教女性参加者の集いは」、退連高齢者集会後、副会長の池田啓子さんの進行で、ジェンダー平等の取り組み、女性の参画状況の報告等の交流を行った。会長の挨拶にもあったが、今年の集いは9月4日に急逝された本村富美子さんを悼む声にあふれた。

○竹田会長挨拶

本村さんが日退教の男女共同参画委員会について、テーマがフェミニズムなのにその言葉はおかしい。女性の参画を積極的にやろうということと、高齢者集会に全国から女性が参加しているのだから「女性参加者の集い」をして意見交換しよう、この会が持たれるようになった。長い間病に冒されながら活動を続け、

今では日退教も退連もジェンダー平等委員会という名称になったし、本村さんはジェンダー平等に確信を持って取り組んでいた。

○山根正子（北退教）さん

活動方針にジェンダー平等を入れて活動しており、年1回女性部委員会を開催。昨年は本村さんを招いてジェンダー平等の学習会を行った。役職に女性が副会長が定着してきた。10月3日に全道で女性集会を開催する。

○北島義久（北退教）さん

本村さんとは沖縄で出会い、ジェンダーについて教わりたくて電話で話した。3年前からサ高住に入居しており、だんだん介護住宅に入る人が増えているが、女性は皆元気だ。

○水間貴子（福井退教）さん

6月に副会長になったばかりだが、そこで「無関心ではいられない」という言葉を聞き、皆さんに伝えたいと思った。政治は男性ばかりだが、福井県は共働き率が高く、本当のところ女性が力を持つ

ている。

○西山ふみえ（福岡県退教）さん

県退教では副会長が女性で幹事も女性8名、男性4名だが、19ある各支部の女性会長は鍋島初美さんのみ。事務局については何人か誘って拡げていきたいと思う。

○平山泰子（神奈川県退教）さん

高校はもともと女性が少なく役員も去年までは1/16だったが、今年には2人になった。総掛かり行動などには多くの女性が参加している。参院選の前、地元の県立高校で元総理大臣の菅さんを講演に呼ぶという話があり、退職者はとんでもないと署名を集めたりしたが、現職が動かなかった（スケジュールの都合で中止）。

○今井啓子（大分県退）さん

初参加、支部の役員をしている。大分では、女性退連教は退女教に繋がっていたが6年前退連教と統合し、昨年完全に一本化し、退連教も活動に取り組んでいる。現職との活動でジェンダーの視点で制服の見直しをしていることを知った。

○今井久夫（大分県退）さん

県の役員で2年前から新聞を作る仕事を担当している。役員の半分は女性。コロナでも、中津支部では署名や選挙の他に、平和を伝える劇団を作り、学校を中心に回っている。

○畑三千代（奈良県退教）さん

奈良は退女教がなかったもので、近畿ブロックに相談して作った。安倍

氏が亡くなった場所だが、国葬に反対する県民集会の実行委員会が立ち上がり、日退教も入っている。9月27日までスタンディング、街宣などをやり、当日は「国葬をぶっ飛ばせコンサート」を企画している。

○平岡事務局長

東京の高校で、本村さんと一緒に活動してきた。非常に残念だが、この現実を受け止めながらがんばって活動していきたい。

○納雪子（鹿児島高退教）さん

初めての参加。高齢者の生活や社会福祉、反戦平和活動が中心で、ジェンダーの問題にはほとんど取り組まない。現退一致では、退職者の方が人数も多く、集会等も現職の参加が難しい中で活動している。

○林誠子（大阪府退教）さん

本村さんが大きなものを残してくれた。役員に女性0だったのが今年3割になり、男性からはこれで退連の目標達成で終わりにされそうだが、女性は何ができるか模索中。10月の組織活動交流集会でその報告をする予定。

○小幡晴美（新潟県退教）さん

事務局長中心に元気に楽しく取り組んでいる。「学びの集い」という集会が好きで、女性社長の講演会や音楽、演劇をやっている人たちから講演をもらったりした。

○柴内信子（都高教退）さん

安次嶺さんと都高教退職者会の幹事



本村富美子副会長が、9月4日に逝去されました。

本村さんは、日退教副会長、東京高退教会長、退職者連合副会長として、特にジェンダー平等の確立に力を尽くされ、運動に大きな功績を残されました。心からご冥福を祈ります。

写真は、今年6月9日の日退教単会代表者会議で発言する本村さんです。最後の写真となりました。

玉城デニー沖縄県知事、再選！

9月11日投票の知事選は、玉城デニー候補が、他の2候補の合計得票数を上回る勝利でした。引き続き、辺野古新基地建設を阻止するたたかいを続けましょう！



沖松信夫(元埼玉退教会長)さんを偲ぶ会の冊子各単会に1冊ずつ同封しました。

1日ポツダム宣言受諾が遅れば、特攻隊で出撃だった沖松さんの戦後の生き方を学びましょう!!



竹田会長 地方公務員退職者協議会の会長に就任 (7月27日)

の仲介もあり参加。北海道高教組に7年いた後都高教に入り、直ぐ本村さんと仲良くなり、辺野古にも年数回行ってた。北海道で連絡を受けたが、もう一度会いたかった。

○安慶名つる子(沖縄県退教)さん
本村さんとは沖縄に見えろたびに交流していたので残念。過去4回の市長選では敗けていたが、参院選で巻き返し、知事選でも勝利した。沖縄では明けても暮れても辺野古で、中頭支部87歳の玉那覇トミ子会長も毎週通って頑張っている。

○安次嶺美代子(沖縄高退教)さん
知事選での全国からの激励に感謝。本村さんとは7月30日にメールをし、病魔と闘っている

知ったが、次の連絡が計報で、やり残したことがたくさんあったと思ひ残念。30年ほど月1でジェンダー平等について考える学習会を、小中の現職と一緒にしているのを誇りとして

○松田秀子(都高教退)さん

幹事会の女性メンバーがやっと3割を超えたところで本村さんが亡くなった。6月4日に現職と共催で、女性相談会を立ち上げた松元ちえ

さんの講演を行ったが、それが会長としての姿を見た最後になった。本村さんの強い思いで辺野古ツアアやジェンダー平等に取り組んできたが、都高教退の今後の体制が課題だ。

○鍋島初美(福岡県退教)さん

役員のうち女性が2/3を占めているが、役員選考委員会の運用規則に女性を50%にするを入れたことで縛りができた。会長が男性なら事務局長は女性、会長が女性なら事務局長は男性としているし、4ブロックから2人ずつ出すのも必ず男女2人とする。役員委員会に女性が1人しかないのが課題。現退一致は選挙に一番力を入れてる。

○池田啓子(兵庫退)さん

古賀ちかげさんが当選されよかった。去年まで女性の吉田順子さんが会長だったが75歳役職定年制で交代した。支部代表は男性1、女性1、現職1の3人体制で日退教加入も進めている。現職との関係では今年、女性部の夏の学習会で話をした。県退連は女性が3人のみで各単会からの1名に女性がなるのは難しいが言い続けたい。

○竹田会長のまとめ

これから先、皆さんが中心となって全国各県の単会がどう意識を変えていけるかが問われている。本村さんの問題提起を受け止め、来年再来年と運動を継続していきたい。

文責：松田秀子

◆編集後記◆

参議院議員選挙最終盤の7月8日、安倍元首相が銃撃され死亡するという事件が起こった。同情票が自民党に集まり、野党は厳しい状況となってしまったが、日政連の古賀ちかげさん、そして斎藤よしあさんが当選を勝ち取ることができたことに少し喜びを感じる。

ほっとしたのも束の間、7月14日、岸田首相は安倍元首相の「国葬」実施を表明し、22日、9月27日に実施することを閣議決定した。教育基本法を改悪し「国を愛する心」を入れ込み、道徳を教科とし教科書を作ることを決定した安倍さんである。集団的自衛権を容認する「解釈改憲」、特定秘密保護法、共謀罪など大きな問題を数の力で強引に押し進めてきた安倍さんである。

そもそも「国葬」には法的根拠がなく、国民に弔意を押し付けるような行事を閣議決定のみで強行することは「民主主義に対する挑戦」である。岸田首相は「内閣府設置法で、内閣府の所掌事務として国の儀式に関する事務にすることが明記されている。国の儀式として行う国葬儀については、閣議決定を根拠として、行政が国を代表して行い得る」と述べている。「国葬」ではなく「国葬儀」だからできるという論理である。しかし、その違いが何を意味するのか全く説明はない。

安倍さんと統一教会との密接な関係も明らかになる中で、当初は賛成が多かった世論調査だが、現在は反対が多数を占めるように変わってきている。9月27日、どのようになるのだろうか？(K)